2024年度

日本健康医療専門学校

シラバス　（講義概要）

柔道整復学科

1年生

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
人文科学1（国語表現）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
赤塚 史		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

専門科目の学習を始めるにあたり、いま一度「読むこと・書くこと」を中心とした国語基礎力を総点検する。また、社会人として適切な言葉の運用ができるよう、必要な知識を身に着ける。自身の知識や思考を誤解なく相手に伝えるためには、どのような言葉で、どのような手順で伝えるのがよいのか、実践的に学ぶ。

〈到達目標〉

「わかりやすい文章」がどのように作られるのかを理解し、自分でも作成できるようになる。様々な文章に触れ、読んで理解し、知識を蓄える。

2 授業内容

第1回	授業ガイダンスと自己紹介文の作成		
第2回	文の書き方①(一文一義、主語述語の位置など)		
第3回	文の書き方②(話し言葉と書き言葉、読点など)		
第4回	文章構成の仕方		
第5回	「じゃんけん」説明文を書く		
第6回	意見文の書き方		
第7回	物語を〈読む〉		
第8回	一般教養を身につける①(慣用句、難読地名など)		
第9回	一般教養を身につける②（日本の習慣など）		
第10回	一般教養を身に着ける③(間違いやすい漢字など)		
第11回	エッセイを〈読む〉		
第12回	敬語をマスターする①		
第13回	敬語をマスターする②		
第14回	日本の古典に触れる		
第15回	意見文に〈反論する〉		

3 履修上の注意

専門科目と直接的には関係しない授業だが、学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習(事前準備)が必要な場合は、その都度指示をする。

5 教科書

教員が資料（プリント等）を準備し、授業時に配布する。

6 参考書

適宜紹介する。

7 成績評価の方法

平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み総合評価とする)

試験(レポート形式)60％以上を合格とする

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

専門学校国語関連科目講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
人文科学2（コミュニケーション）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
赤塚 史		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

医療従事者として責任をもって患者と向き合い、同僚と良好な関係を築くために必要なコミュニケーションを学ぶ。例えば、〈医療従事者と患者〉間の情報伝達と、〈医療従事者同士〉での情報伝達とでは、相手に合わせて伝え方を変える必要があるだろう。また、相手の世代や言語環境への留意も必要となろう。社会人として、また専門職の担い手として、相手にわかりやすい説明をし、相手が正しく理解できる文章を作成し、相手の話をきちんと聞

〈到達目標〉

医療従事者として正しく十分な説明ができるよう、自身の言葉の使い方を見直し、修正できるようになる。インフォームド・コンセントへの認識を深める。

2 授業内容

第1回	ガイダンスと他己紹介		
第2回	相手に伝わる表現を探す①		
第3回	相手に伝わる表現を探す②		
第4回	伝え方のバリエーションを増やす①		
第5回	伝え方のバリエーションを増やす②		
第6回	対象に合わせた掲示物を考える		
第7回	場面に応じた表現を使う①		
第8回	場面に応じた表現を使う②		
第9回	聞き書きの練習をする①		
第10回	聞き書きの練習をする②		
第11回	オノマトペを適切に使う		
第12回	電話のかけ方、メールの書き方をマスターする		
第13回	相手に伝わる「説明」を考える		
第14回	相手に伝わる「紹介文」を考える		
第15回	相手に伝わる「自己PR」を考える		

3 履修上の注意

専門科目と直接的には関係しない授業だが、学生としても社会人としても役立つ内容を扱うので、積極的に授業に臨んでほしい。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

基本的には授業時間内で完結する内容を用意する。予習(事前準備)が必要な場合は、その都度指示をする。

5 教科書

教員が資料（プリント等）を準備し、授業時に配布する。

6 参考書

適宜紹介する。

7 成績評価の方法

平常点(出席状況，課題提出等を総合的に鑑み総合評価とする)
試験(レポート形式)60％以上を合格とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

専門学校国語関連科目講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	税理士の実務経験　税理士事務所所長		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会科学1（法学入門）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
平 仁		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

社会人として適正に法律を遵守することは不可欠である。またトラブルに巻き込まれないよう、法的知識を身につけておくことは職業人として必須項目である。講義の前段は①法とは何か、②法律の体系、③法秩序の原則、④法令の解釈の仕方を理解する。業法を通じて、日本国憲法の正しい理解と、民法、労働法の基礎を学習することが主たる講義内容である。

〈到達目標〉

法的素養、中でも正しい法解釈を習得することを第一目標とするが、叶うならば法的思考力の獲得を最終的な目標としたい。

2 授業内容

第1回	ガイダンス　日本国憲法（人権）（レジュメを使用）		
第2回	日本国憲法（統治）（レジュメを使用）		
第3回	業務内容、免許等		
第4回	施術		
第5回	療養費①		
第6回	療養費②		
第7回	学習習得度確認テスト（中間試験）		
第8回	交通事故		
第9回	労災		
第10回	患者トラブル		
第11回	情報管理		
第12回	広告		
第13回	人事労務①		
第14回	人事労務②		
第15回	最終評価		

3 履修上の注意

テキストに記載がない憲法等についてはレジュメにより補完する。授業は休むことなく出席することを求めます。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は特に求めないが、授業後、ネット検索等を含め、情報を集め、テキストをよく読み返すこと。

5 教科書

高津陽介『柔道整復師が知っておくべき法律知識Q&A』日本法令（令和4年）

6 参考書

特になし

7 成績評価の方法

テキストやレジュメ、ノート等持込可のテストを中間期と最終試験で行う。60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

元青山学院大学大学院客員教授ほか、6つの大学で、法学、経営学、会計学等の指導歴有。税理士（関信会川口支部）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活	税理士の実務経験　税理士事務所所長		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会科学2（社会保険制度）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
平 仁		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

日本国憲法第25条に規定する理念に基づき制定されている様々な社会保障制度の内、特に疾病、老齢、失業、労働災害などの事由に基づき給付される社会保険制度について取り上げ講義を行う。柔道整復師の場合、患者に代わって療養費や労災の真摯に関わる場面も多いので、制度の仕組みをしっかりと理解して頂きたい。

〈到達目標〉

日本の社会保険制度を理解し患者等に適切な指導助言ができる知識を得ること。

2 授業内容

第1回	ガイダンス　社会保険・労働保険の全体像		
第2回	労働保険のしくみ①		
第3回	労働保険のしくみ②		
第4回	労災保険のしくみ①		
第5回	労災保険のしくみ②		
第6回	雇用保険のしくみ①		
第7回	雇用保険のしくみ②		
第8回	学習習得度確認テスト（中間試験）		
第9回	社会保険のしくみ		
第10回	健康保険のしくみ①		
第11回	健康保険のしくみ②		
第12回	年金制度のしくみ①		
第13回	年金制度のしくみ②		
第14回	公的社会保障を補完する民間保険制度		
第15回	最終評価		

3 履修上の注意

公的な社会保障制度は社会的弱者を擁護する最後の砦の1つである。そこを理解した上で、授業に休まずに出席してもらいたい。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

予習は特に求めないが、授業後、ネット検索等を含め、情報を集め、テキストをよく読み返すこと。

5 教科書

小島彰監修『図解で早わかり　最新　社会保険・労働保険のしくみと手続き』三修社(2019年)

6 参考書

特になし

7 成績評価の方法

テキストやレジュメ、ノート等持込可のテストを中間期と最終試験に実施。60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

青山学院大学大学院客員教授ほか、6つの大学で法学、経営学、会計学等の指導歴有。税理士（関信会川口支部）。

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
自然科学1（人体の構造）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
丹尾 美絵		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

解剖学と生理学をそれぞれの専門の先生が教えてくれます。２つの教科の間に入り、結びつけてヒトの身体として理解するのが自然科学の科目としての位置づけです。『解剖学や生理学のイメージがつきにくかったり、また、解剖学と生理学が別々に感じて、繋がりが持てていないように思える。』ことに対して、理解しやすい解剖生理学を目指します。しかし、学問、学習、医学は、とても奥が深く、不明な点が多い事もあります。そこが、理解しにく

〈到達目標〉

医療従事者としてのコンピテンシーを充足させプロフェッショナリズムの入り口に達するレベルを最終到達目標とする。

2 授業内容

第1回	授業ガイダンスと生物基礎①（身体の位置と構造）1		
第2回	生物基礎①（身体の位置と構造） 2		
第3回	生物基礎①（細胞の構造とＡＴＰ） 1		
第4回	生物基礎①（細胞の構造とＡＴＰ） 2		
第5回	生物基礎②(DNAの構造)		
第6回	生物基礎②(遺伝子情報と蛋白質合成)		
第7回	生物基礎③(体液) 1		
第8回	生物基礎③(体液) 2		
第9回	生物基礎③(血管の種類と構造)		
第10回	生物基礎③(心臓の構造) 1		
第11回	生物基礎③(心臓の構造)2		
第12回	生物基礎③(血液の循環) 1		
第13回	生物基礎③(血液の循環) 2		
第14回	生物基礎③(体液濃度の調節)		
第15回	第１回から第15回までの振り返り(まとめ)		

3 履修上の注意

解剖学、生理学の講義をしっかりと学び、理解するように努めること。疑問や課題をこの科目で解決しましょう。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

解剖学、生理学の予習と復習

5 教科書

解剖学、生理学の教科書

6 参考書

ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版

7 成績評価の方法

定期試験及び小試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、課題提出、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

専門学校法律関連科目講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	科学的思考の基礎 人間と生活			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
自然科学2（現代社会と健康）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
丹尾 美絵		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

解剖学と生理学をそれぞれの専門の先生が教えてくれます。２つの教科の間に入り、結びつけてヒトの身体として理解するのが自然科学の科目としての位置づけです。『解剖学や生理学のイメージがつきにくかったり、また、解剖学と生理学が別々に感じて、繋がりが持てていないように思える。』ことに対して、理解しやすい解剖生理学を目指します。しかし、学問、学習、医学は、とても奥が深く、不明な点が多い事もあります。そこが、理解しにく

〈到達目標〉

医療従事者としてのコンピテンシーを充足させプロフェッショナリズムの入り口に達するレベルを最終到達目標とする。

2 授業内容

第1回	生物基礎③(肝臓の概要)		
第2回	生物基礎③(腎臓の概要)		
第3回	生物基礎③(生命徴候) 1		
第4回	生物基礎③(生命徴候) 2		
第5回	生物基礎④(栄養素の種類) 1		
第6回	生物基礎④(栄養素の種類) 2		
第7回	生物基礎④(栄養素の種類) 3		
第8回	生物基礎④(消化器の種類と働き)		
第9回	生物基礎④(消化液と消化酵素) 1		
第10回	生物基礎④(消化液と消化酵素) 2		
第11回	生物基礎④(栄養素の吸収)		
第12回	生物基礎④(エネルギー消費)		
第13回	生物基礎⑤(呼吸の種類と胸部の内臓)		
第14回	生物基礎⑤(呼吸による空気の流れと呼吸運動の仕組み)		
第15回	全授業の振り返り		

3 履修上の注意

解剖学、生理学の講義をしっかりと学び、理解するように努めること。疑問や課題をこの科目で解決しましょう。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

解剖学、生理学の予習と復習

5 教科書

解剖学、生理学の教科書

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験及び小試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、課題提出授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

専門学校法律関連科目講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	生涯にわたる体力づくりへの礎となる知識、理解を深める。			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
保健体育		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
井田 亜彩実		2単位	30時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

実技と講義を交え、生涯にわたる運動との関わり合いについて授業を行います。
実技では主にダンスやトレーニング方法、体つくり運動をメインに行います。
互いの体を知り、理解を深めることで多様性や、現代においてのスポーツの必要性について考えて行きます。

〈到達目標〉

心と体を一体としてとらえ、他者との相互理解を深める活動を通して、スポーツに対する意識を多角的に思考する力を養うと共に、自ら考え、能動的に行動できる人間力を培うことを目標とします。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション　授業の進め方と諸注意体ほぐし運動		
第2回	体ほぐし運動、リズムを使ったダンス　シンプルな動きから体を動かすアイデアを学ぶ		
第3回	ダンス　ペアワークを使った表現他者との違いを知り、コミュニケーション能力を育む		
第4回	講義　生涯スポーツと多様性		
第5回	体つくり運動　各種の体ほぐし運動，体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
第6回	イスラエル発祥　身体調整メソッド　イラン・レヴについて他国のトレーニング方法を学び、幅広い知識を得る		
第7回	体力つくり運動　各種の体ほぐし運動，体力を高める運動を行い体力向上を目指す		
第8回	講義　心と体の関わりとストレス		
第9回	グループワーク　表現ダンス　言葉を使った身体表現想像力やコミュニケーション能力、自己を表現する力を養う		
第10回	最終評価　試験		

3 履修上の注意

体を動かす授業を行うため、準備体操はしっかり行い怪我がないようにする。頭髪・ピアス・服装の乱れなどは厳禁とし評価対象とする。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で使用したプリントの復習

5 教科書

6 参考書

講師作成プリント

7 成績評価の方法

定期試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

筑波大学・大学院　体育学修士　中学校・高等学校保健体育免許取得イラン・レヴメソッドセラピスト

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
形態機能学１（解剖学）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
工藤 宏幸		4単位	80時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

形態機能学は人体を理解するための基本的な学問であり、形態（構造）を対象とする解剖学と、機能を対象とする生理学を統合したものである。本講義では、細胞と組織を概観し、内臓系（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、神経系（中枢神経系、末梢神経系）の主要器官について、解剖学的な側面から解説する。各器官の構造的な特徴とそれを説明するための解剖学用語を解説し、その構造に関係する生理機能や臨床応用の知

〈到達目標〉

細胞と組織の基本的な構成を説明できる。内臓系（消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系）、神経系（中枢神経系、末梢神経系）の主要器官について、各器官の名称、位置、構造的特徴、生理機能の概略を説明できる。

2 授業内容

第1回	解剖学総論１．解剖学用語、細胞	第21回	内分泌器２．甲状腺、副腎、膵島
第2回	解剖学総論２．組織	第22回	神経系総論１．神経組織
第3回	消化器系１．消化器総論、口腔	第23回	神経系総論２．神経系発生
第4回	消化器系２．咽頭、食道	第24回	中枢神経系１．区分、脳室系、髄膜
第5回	消化器系３．胃	第25回	中枢神経系２．大脳半球、間脳
第6回	消化器系４．小腸、大腸	第26回	中枢神経系３．脳幹
第7回	消化器系５．肝臓、膵臓	第27回	中枢神経系４．小脳
第8回	消化器系６．腹膜	第28回	中枢神経系５．脊髄
第9回	定期試験１	第29回	定期試験３
第10回	呼吸器系１．鼻腔、喉頭	第30回	中枢神経系６．上行性伝導路
第11回	呼吸器系２．気管、気管支	第31回	中枢神経系７．下行性伝導路
第12回	呼吸器系３．肺、胸膜	第32回	末梢神経系１．末梢神経系総論
第13回	泌尿器系１．腎臓	第33回	末梢神経系２．脳神経（I～VI）
第14回	泌尿器系２．尿管、膀胱、尿道	第34回	末梢神経系３．脳神経（VII～XII）
第15回	男性生殖器系１．精巣、精管	第35回	末梢神経系４．脊髄神経総論、頸神経叢
第16回	男性生殖器系２．精液分泌腺、外部生殖器	第36回	末梢神経系５．腕神経叢
第17回	女性生殖器系１．卵巣	第37回	末梢神経系６．腰神経叢、仙骨神経叢
第18回	女性生殖器系２．卵管、子宮、膣	第38回	末梢神経系７．自律神経系総論
第19回	定期試験２	第39回	定期試験４
第20回	内分泌器１．下垂体、松果体	第40回	末梢神経系８．自律神経系各論

3 履修上の注意

形態的特徴の理解と解剖学用語の習得が必須である為、学習の反復や用語を自発的に使用し、解剖学の知識を習熟すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

予習：教科書の講義予定範囲を一読すること。復習：講義ノートおよび配布プリントを整理し、繰り返し学習するための資料を作成すること。

5 教科書

「解剖学　改訂第２版」　全国柔道整復学校協会監修　医歯薬出版社

6 参考書

「カラー図解　人体の正常構造と機能　縮刷版第４版」坂井建雄・河原克雅総編集　日本医事新報社

7 成績評価の方法

定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

医学部解剖学講座教員として、人体解剖学講義、人体発生学、解剖実習を担当。

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	人体の構造と機能			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
形態機能学２（生理学1）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
山門 一平		4単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

医療従事者として身体の構造と機能を理解することは必須であり、解剖と生理学で構成される形態機能学は重要な教科です。構造あっての機能。機能のための構造として、カタチを知り機能を理解するために、多くの単語を使います。学習のポイントは、単語のネットワークとイメージです。基礎医学である形態機能学を”理解”し、臨床に結びつく基礎を学修します（GIO）

〈到達目標〉

形態機能学に欠かせない用語を正しく分類し、列挙することができる。また、各構造と機能に対し、理解した上で説明することが出来る（SBOs）

2 授業内容

第1回	生理学とは1/2　細胞、組織	第16回	感覚の生理2/4　感覚（特殊感覚）
第2回	生理学とは1/2　恒常性、体液	第17回	感覚の生理3/4　体性感覚と内臓感覚
第3回	筋の生理1/3　骨格筋構造と筋収縮メカニズム	第18回	感覚の生理4/4　痛覚
第4回	筋の生理2/3　骨格筋の収縮生理、筋電図	第19回	定期試験
第5回	筋の生理3/3　心筋、平滑筋	第20回	栄養と代謝1/2　栄養素
第6回	神経の生理1/5　ニューロンと興奮、伝導	第21回	栄養と代謝2/2　エネルギー代謝と栄養素の代謝
第7回	神経の生理2/5　神経系	第22回	消化器1/4　消化と吸収、消化管構造
第8回	神経の生理3/5　脳の高次機能	第23回	消化器2/4　消化液の種類
第9回	定期試験	第24回	消化器3/4　食物の消化と吸収
第10回	神経の生理4/5　睡眠、学習、内臓の調節	第25回	消化器4/4　各栄養素の消化と吸収
第11回	神経の生理5/5　反射	第26回	体温とその調節1/3　体温と熱産生
第12回	運動の生理1/3　下行性伝導路	第27回	体温とその調節2/3　体温調節
第13回	運動の生理2/3　運動ニューロン	第28回	体温とその調節3/3　順化と発熱
第14回	運動の生理3/3　筋の調節　α-γ連関　運動調節	第29回	定期試験
第15回	感覚の生理1/4　感覚（一般感覚）	第30回	生理学1まとめ

3 履修上の注意

十分な予習、反復学習が必要となります。
生理学を理解し、医療従事者として必要最低限の知識は全員が習得する様にしましょう。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

LMS内の問題や課題に関しては、必ず取り組む様にして下さい。また、講義後には確認テストを当日中に終える様にしましょう。

5 教科書

指定教科書

6 参考書

講義資料

7 成績評価の方法

定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

東海大学医学部基礎医学系医学教育学　助教　解剖生理学ほか担当

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
保健医療福祉１（公衆衛生学）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
宮山 貴光		4単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

公衆衛生学とは、「皆の健康」を守る学問である。具体的には、疾病を予防し、寿命を延伸し、身体的及び精神的健康の増進をはかる科学・技術を扱う学問分野である。疫学的調査や保健統計などから、ヒトの健康や疾病に関する様々な要因を探り、身体的・精神的及び社会的に健康な生活を送るための課題、健康増進や疾病予防へのアプローチ方法などの知識を習得する。

〈到達目標〉

衛生学、公衆衛生学の理念・概説が理解できる。

2 授業内容

第1回	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	第16回	精神保健
第2回	健康の概念	第17回	産業保健
第3回	疾病予防と健康管理	第18回	成人保健
第4回	感染症の予防①　感染症とは	第19回	試験②
第5回	感染症の予防②　感染症の予防対策	第20回	試験解説
第6回	消毒①　消毒とは	第21回	高齢者保健
第7回	消毒②　消毒の種類と方法	第22回	地域保健と国際保健
第8回	環境衛生①　環境とは	第23回	衛生行政と保健医療制度①
第9回	試験①	第24回	衛生行政と保健医療制度②
第10回	試験解説	第25回	医療倫理と安全確保①
第11回	環境衛生②　公害、環境問題、リスク評価	第26回	医療倫理と安全確保②
第12回	生活環境	第27回	疫学①
第13回	食品衛生活動	第28回	疫学②
第14回	母子保健	第29回	試験③
第15回	学校保健	第30回	試験解説

3 履修上の注意

ノートと教科書を必ず持参すること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

各回の授業の予習と復習を必ず行うこと。

5 教科書

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

博士（医薬学）、薬剤師、東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学助教

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
職業倫理（関係法規２）		1学年	後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大城 啓子		1単位	15時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

柔道整復師として、その職業の社会的責任の重大性を認識させ、もって広く社会貢献できる人材を育てることが、本講義の目的である。
主たる内容として、柔道整復師は生涯学習の精神を保ち、常に医学の知識と技術の習得に努めるとともに、その進歩・発展に尽くすこと。そしてこの職業の尊厳と責任を自覚し、教養を深め、人格を高めるように心掛けること。

〈到達目標〉

事例を交えて理解させ、修得させることで、後世に向けて柔道整復術の必要性や、伝統医療としての重要性を途絶えさせることのない医療人を育成することが、本講義の到達目標である。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション		
第2回	医療従事者の職業倫理		
第3回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応①		
第4回	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応②		
第5回	柔道整復師の社会的責任と対応		
第6回	グループ・ディスカッション事例		
第7回	医療における情報と責任		
第8回	最終評価		

3 履修上の注意

遅刻および欠席は認めない。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で実施した内容は必ず復習をしておくこと。

5 教科書

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版株式会社）

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

ハローワーク職業訓練学校講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	保健医療福祉と柔道整復の理念	整骨院勤務の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道実技（柔道１）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
竹村 春樹		2単位	80時間	実技

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

1882年に嘉納治五郎師範によって創始された柔道は、現在200か国に普及発展を遂げている。柔道整復師における柔道実技は、理合いを体得することで整復実技等の応用力に繋がるものである。本講義では、柔道の基本技術となる礼法と受身を中心を学び、投技技術の基礎を体得していけるようにする。

〈到達目標〉

柔道の基本技術となる礼法と受身を中心を学び、投技技術の基礎を体得していけるようにする。

2 授業内容

第1回	ガイダンス	第21回	前期授業の復習①
第2回	柔道の歴史について	第22回	前期授業の復習②
第3回	礼法	第23回	体落①
第4回	後方受身	第24回	体落②
第5回	側方受身	第25回	体落③
第6回	前方回転受身①	第26回	大内刈①
第7回	前方回転受身②	第27回	大内刈②
第8回	前方回転受身③	第28回	釣込腰①
第9回	前方回転受身④	第29回	釣込腰②
第10回	前方回転受身⑤	第30回	釣込腰③
第11回	確認テスト	第31回	確認テスト
第12回	技の理合いについて①	第32回	柔道の試合とルールについて
第13回	技の理合いについて②	第33回	固技の習得①
第14回	大腰①	第34回	固技の習得②
第15回	大腰②	第35回	寝技基本練習
第16回	背負投①	第36回	寝技乱取①
第17回	背負投②	第37回	寝技乱取②
第18回	背負投③	第38回	立技乱取の基礎
第19回	確認テスト	第39回	確認テスト
第20回	まとめ	第40回	最終評価

3 履修上の注意

ケガ防止のため担当者の指示に必ず従うこと。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業内で実施した内容を次の授業までに復習しておくこと。

5 教科書

柔道実技虎の巻　森脇　保彦　著　メディアパル社

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験60%以上取得が合格とし、出席率、授業態度等、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

講道館柔道三段

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門基礎分野	社会保障制度			
授業科目		配当年次	配当学期	区分
社会保障制度（社会保障制度）		1学年	前期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
大城 啓子		1単位	15時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

国民の生存権の確保を目的とした国家の保障制度を理解することは、その一翼を担う医療人として不可欠である。社会保障制度の目的は国民の生活の安定、自立支援、家庭機能の支援である。始めにこれらを国家として取り組む必要性について理解をする。次にこの制度を維持するための、社会的安全装置（社会的セーフティネット）相互扶助、所得再分配とは何か、最後に社会保障制度を運用するための具体的な法整備について知る。

〈到達目標〉

社会保障制度の中で柔道整復師はどう貢献すべきなのかを理解することが当講義の根源的な目標である。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション		
第2回	社会保障、社会保険制度		
第3回	医療保険制度①		
第4回	医療保険制度②		
第5回	療養費制度①		
第6回	療養費制度②		
第7回	療養費請求のケーススタディ		
第8回	最終評価		

3 履修上の注意

遅刻および欠席は認めない。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

講義で実施した内容は必ず復習をしておくこと。

5 教科書

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理（医歯薬出版株式会社）

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

ハローワーク職業訓練学校講師

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	基礎柔道整復学	接骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（総論）１（骨折総論）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
佐藤 洋平		4単位	80時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

骨の性状や役割、骨折が発生する因子、分類、治癒過程等を理解させ骨折総論の基礎を履修させる。
小テストを実施し履修度合いを確認。

〈到達目標〉

概要で述べた内容が概ね口述でき、選択問題の正答率が８割を超えるようにする。

2 授業内容

第1回	身体の基礎的状態、損傷時に加わる力	第21回	授業ガイダンス
第2回	骨の構造、骨損傷の分類	第22回	上肢帯の機能解剖
第3回	骨折の定義・損傷の程度による分類（完全骨折・不全骨折）	第23回	鎖骨骨折①
第4回	骨折線の方向による分類、骨折数による分類、創部との交通の有無による分類	第24回	鎖骨骨折②
第5回	外力の働き方による分類	第25回	肩鎖関節脱臼①
第6回	骨折の症状（一般外傷症状、固有症状）①	第26回	肩鎖関節脱臼②
第7回	骨折の症状（一般外傷症状、固有症状）②	第27回	胸鎖関節脱臼①
第8回	骨折の全身症状	第28回	肩甲骨骨折
第9回	前期確認試験	第29回	後期確認試験①
第10回	解説とフィードバック	第30回	解説とフィードバック
第11回	骨折の合併症①（併発症、続発症）	第31回	肩関節と上腕骨の機能解剖
第12回	骨折の合併症②（続発症、後遺症）	第32回	上腕骨近位端部骨折：概略、分類
第13回	小児の骨折①	第33回	上腕骨近位端部骨折：骨頭骨折、解剖頚骨折
第14回	小児の骨折②、高齢者の骨折①	第34回	上腕骨近位端部骨折：大、小結節単独骨折、近位骨端線離開
第15回	高齢者の骨折②、骨折の癒合日数	第35回	上腕骨外科頚骨折①
第16回	骨折の治癒経過	第36回	上腕骨外科頚骨折②
第17回	骨折の予後、骨折の治癒に影響を与える因子①	第37回	肩関節脱臼①
第18回	まとめ	第38回	肩関節脱臼②
第19回	前期確認試験	第39回	後期確認試験②
第20回	最終評価	第40回	最終評価

3 履修上の注意

教科書、ノートを持参。※時間は有限のため授業内での理解に努めるようしっかりと参加してください。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

理解できなかった部分は質問をして解決させ後に残さないこと。

5 教科書

柔道整復学(理論編)

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

スポーツジムのメディカルトレーナーの実務経験

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	基礎柔道整復学	整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（総論）２（柔整解剖）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
源田 周人		2単位	60時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

本講義の目的は全身を巡る循環器（心臓・血管）を解剖学的と生理学的に学ぶ。今後学んでいく柔道整復各論の際に合併症で起こりうる血管損傷の部位や拍動の確認ができるように血管の走行を学習する。

〈到達目標〉

各疾患（骨折・脱臼）の損傷の際に起こりうる血管損傷を解剖学的視点から考察することができるための力を身につけていくことが目標である。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション	第16回	確認試験
第2回	循環器系復習①	第17回	下肢の血管と走行①
第3回	循環器系復習②	第18回	下肢の血管と走行②
第4回	循環器系復習③	第19回	下肢の骨折と血管損傷①
第5回	血管損傷総論①	第20回	下肢の骨折と血管損傷②
第6回	血管損傷総論②	第21回	下肢の脱臼と血管損傷①
第7回	上肢の血管と走行①	第22回	下肢の脱臼と血管損傷②
第8回	上肢の血管と走行②	第23回	下肢の軟部組織損傷と血管損傷①
第9回	上肢の骨折と血管損傷①	第24回	下肢の軟部組織損傷と血管損傷②
第10回	上肢の骨折と血管損傷②	第25回	下肢の血管損傷と判断
第11回	上肢の脱臼と血管損傷①	第26回	上肢の脈拍触知部位と脈の取り方
第12回	上肢の脱臼と血管損傷②	第27回	下肢の脈拍触知部位と脈の取り方
第13回	上肢の軟部組織損傷と血管損傷①	第28回	その他の脈拍触知部位と脈の取り方
第14回	上肢の軟部組織損傷と血管損傷②	第29回	総復習
第15回	上肢の血管損傷と判断	第30回	最終評価

3 履修上の注意

・毎授業開始時に先週の範囲から小テストを実施する。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

・先週の授業範囲の内容を復習し小テストに臨むこと。

5 教科書

解剖学、柔道整復理論

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験全2回の平均点を評価とし60％以上を合格とする。出席率、授業態度等、小テスト、授業に対する姿勢の総合評価とする。ただし、40点未満は平均点に関わらず必ず再試験を受験する

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	基礎柔道整復学	接骨院経営及び実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（総論）４（脱臼総論）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
佐藤 洋平		4単位	80時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

本講義では関節の構造と形態を解剖学や運動学の知識をもとに学んでいき、関節部の損傷として脱臼が発生するメカニズムや、脱臼の分類、脱臼の整復障害、靱帯損傷や筋・腱の軟部組織損傷を理解する。

〈到達目標〉

各部位における関節損傷および軟部組織損傷を学んでいくための基礎的な知識、および国家試験に対応できる学力の獲得を到達目標とする。

2 授業内容

第1回	関節の構造	第21回	筋損傷
第2回	関節の構成組織	第22回	筋の構造
第3回	関節の構成組織	第23回	筋損傷
第4回	関節損傷	第24回	筋損傷の分類
第5回	関節損傷	第25回	筋損傷の分類
第6回	関節軟骨損傷	第26回	筋損傷の治癒機序
第7回	関節軟骨損傷	第27回	筋損傷総論
第8回	その他関節構成組織損傷	第28回	筋損傷総論
第9回	第１回定期試験	第29回	第３回定期試験
第10回	試験解説	第30回	試験解説
第11回	脱臼の定義	第31回	腱の構造
第12回	脱臼の分類	第32回	腱の損傷
第13回	脱臼の分類	第33回	腱損傷の分類
第14回	脱臼の症状	第34回	腱損傷の症状
第15回	脱臼の合併症	第35回	末梢神経の構造
第16回	脱臼の予後	第36回	神経損傷の分類
第17回	脱臼総論	第37回	神経損傷の分類
第18回	脱臼総論	第38回	神経損傷の種類
第19回	第２回定期試験	第39回	第4回定期試験
第20回	試験解説	第40回	試験解説

3 履修上の注意

授業中にノートはまとめなくてよい。ひたすら教員の説明に耳を傾け、教科書に書いていない内容をメモすること。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

予習の必要性はないので、講義のノート、小テストで覚えるまで反復する。

5 教科書

柔道整復学・理論編 改定第７版

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験及び授業内小テスト得点は60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

自然医学

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	臨床柔道整復学	鍼灸整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（各論）２（柔整解剖）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
佐々木 慎司		2単位	40時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

臨床柔道整復学は、痛みと外傷のメカニズムを学ぶ教科である。基本的な皮膚の構造、視覚器、聴覚器、嗅覚器を解剖学と生理学から学び、柔道整復の外傷につなげて知識を得ていく。

〈到達目標〉

痛みや平衡覚のメカニズムを理解することである。講義の進め方として、教科書の記載内容と臨床現場での実際を交えながら学習する。

2 授業内容

第1回	表皮の感覚	第16回	視覚の伝導路
第2回	真皮の感覚	第17回	動体視力
第3回	皮下組織の感覚	第18回	視覚と外傷の関係
第4回	運動受容器	第19回	視覚と外傷の関係②
第5回	創傷の治癒メカニズム	第20回	前期試験
第6回	創傷の治癒メカニズム②	第21回	外耳の構造
第7回	運動感覚の失調による外傷	第22回	中耳の構造
第8回	運動感覚の失調による外傷②	第23回	内耳の構造
第9回	汗腺、乳腺、脂腺	第24回	骨迷路と膜迷路
第10回	中間試験	第25回	コルチ器の働き
第11回	線維膜の構造	第26回	卵形嚢と球形嚢の働き
第12回	血管膜の構造	第27回	膨大部稜の働き
第13回	網膜の構造	第28回	平衡感覚と外傷の関係
第14回	水晶体の動き	第29回	平衡感覚と外傷の関係②
第15回	光の通過路	第30回	中間試験

3 履修上の注意

臨床現場において非常に重要な科目となるので基本的に欠席は認めない。
1コマ（45分）の授業を40回行う。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

前回の授業でやった内容は必ず各自で復習をしておく。

5 教科書

柔道整復理論、解剖学、生理学

6 参考書

7 成績評価の方法

授業内で行う小テスト、中間試験、本試験において合計して60%以上取得が合格となる。出席状況および授業態度等も評価に入れる事もある

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	臨床柔道整復学	沼尻 昭：整形外科の実務経験☒ 新才 博紀：整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復理論（各論）6（柔整解剖）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
新才 博紀、沼尻 昭		4単位	120時間	講義

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

柔道整復師として施術を行うためには部位別の運動器についての知識を身につけ、全身の骨や関節、靱帯の構造や、筋腱の走行を理解することが必須である。そのため、関節の解剖学的構造と関節の運動メカニズムも併用し学習していくことが必要となる。各疾患部に関わる解剖学および運動生理学（運動メカニズム）、さらには柔道整復理論を理解したうえで、各疾患（骨折・脱臼）を想定し整復動作と固定法を学び、それを行えるようにする。

〈到達目標〉

各疾患（骨折・脱臼）の損傷のメカニズムや症状および合併症を解剖学的視点から考察することが出来るための力を身につけていくことが目標である。

2 授業内容

第1回	解剖学用語①	第31回	股関節
第2回	解剖学用語②	第32回	膝関節①
第3回	骨格系総論(骨)①	第33回	膝関節②
第4回	骨格系総論(骨)②	第34回	下腿の連結
第5回	骨格系総論(骨)③	第35回	足関節①
第6回	鎖骨　肩甲骨	第36回	足関節②
第7回	上腕骨	第37回	足指の連結
第8回	橈骨	第38回	筋系総論①
第9回	尺骨	第39回	筋系総論②
第10回	確認試験	第40回	筋系総論③
第11回	手根骨	第41回	筋系総論④
第12回	指骨	第42回	上肢帯筋①
第13回	骨格系総論(関節)①	第43回	上肢帯筋②
第14回	骨格系総論(関節)②	第44回	確認試験
第15回	確認試験	第45回	上腕の筋
第16回	胸鎖関節　肩鎖関節	第46回	前腕の筋①
第17回	肩関節	第47回	前腕の筋②
第18回	肘関節　前腕の連結	第48回	前腕の筋③
第19回	手の連結	第49回	前腕の筋④
第20回	指の連結	第50回	確認試験
第21回	骨盤①	第51回	手の筋
第22回	骨盤②	第52回	下肢帯筋①
第23回	骨盤③	第53回	下肢帯筋②
第24回	大腿骨　膝蓋骨	第54回	大腿の筋①
第25回	脛骨	第55回	大腿の筋②
第26回	腓骨	第56回	下腿の筋①
第27回	足根骨	第57回	下腿の筋②
第28回	足指骨	第58回	確認試験
第29回	骨盤～下肢骨まとめ	第59回	総復習
第30回	定期試験	第60回	最終評価

3 履修上の注意

講義には毎回必ず出席をすること。講義中も受身ではなく自分自身でも考えながら聴講するように努めてもらいたい。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

前週の授業範囲の内容を復習し授業にのぞむこと。

5 教科書

解剖学・柔道整復理論

6 参考書

サブテキスト（柔整解剖運動器系・骨、柔整解剖運動器系・筋）

7 成績評価の方法

定期試験全4回の平均点の60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、小テスト、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
専門分野	柔道整復実技1	整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復実技１（包帯固定法）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
鈴木 青也		2単位	80時間	実習

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

柔道整復師の業務内容である、評価・整復・固定・後療法の理論について理解し、実技に応用し、技術を身に着けることを目的とする。特に評価に重きを置き、人体の構造の特に運動器や支持組織である骨や筋肉、関節周囲組織の解剖学的知識を基に触診や損傷時の症状、検査法を学ぶ。また、臨床現場に向けて必要な知識と技能、態度を学び、患者に対して的節な対応を行えるような学生を育てる。

〈到達目標〉

・評価の項目において、触診や症状、検査法習得をする。
・臨床実習に参加するための知識、技能、態度を身に着ける。

2 授業内容

第1回	オリエンテーション	第21回	鎖骨骨折①
第2回	検査法について	第22回	鎖骨骨折②
第3回	足関節側副靭帯損傷①	第23回	鎖骨骨折③
第4回	足関節側副靭帯損傷②	第24回	鎖骨骨折④
第5回	足関節側副靭帯損傷③	第25回	肩鎖関節脱臼①
第6回	足関節側副靭帯損傷④	第26回	肩鎖関節脱臼②
第7回	膝関節側副靭帯損傷①	第27回	肩鎖関節脱臼③
第8回	膝関節側副靭帯損傷②	第28回	肩鎖関節脱臼④
第9回	膝関節側副靭帯損傷③	第29回	肩鎖関節脱臼⑤
第10回	膝関節側副靭帯損傷④	第30回	上腕骨外科頚骨折①
第11回	膝関節側副靭帯損傷⑤	第31回	上腕骨外科頚骨折②
第12回	膝関節半月板損傷①	第32回	上腕骨外科頚骨折③
第13回	膝関節半月板損傷②	第33回	上腕骨外科頚骨折④
第14回	膝関節半月板損傷③	第34回	上腕骨外科頚骨折⑤
第15回	膝関節半月板損傷④	第35回	下肢軟部組織損傷　検査法①
第16回	足関節・膝関節　検査法	第36回	下肢軟部組織損傷　検査法②
第17回	膝関節十字靭帯損傷①	第37回	下肢軟部組織損傷　検査法③
第18回	膝関節十字靭帯損傷②	第38回	下肢軟部組織損傷　検査法④
第19回	膝関節十字靭帯損傷③	第39回	鎖骨・上腕骨　整復①
第20回	膝関節十字靭帯損傷④	第40回	鎖骨・上腕骨　整復②

3 履修上の注意

・授業中は、講師の指示に従う。
・出席状況と試験結果を成績評価の中心とする。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業・講義での理論の内容を予習、復習しておく。

5 教科書

・柔道整復学・理論編(改定第7版)、・柔道整復学・実技編(改定第2版)・包帯固定学（改訂版第2版）

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験の60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、レポート、課題、小テスト、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）

分野	教育内容	科目と関係のある実務経験		
基礎分野	柔道整復実技3	新才 博紀：整骨院の実務経験☒ 亀田 奈保子：整骨院の実務経験		
授業科目		配当年次	配当学期	区分
柔道整復実技３（テーピング固定法）		1学年	前期後期	必修
担当者名		単位	時間数	授業形態
新才 博紀、亀田 奈保子		3単位	120時間	実習

1 授業科目の概要・到達目標

〈概要〉

本講義では柔道整復師の業務内容である診察、整復、固定、後療法の理論を理解し、実技につなげることを目的とする。

実技では患者一人一人に合った治療法を選択し実施できるよう、視診や触診の技術と的確な判断力を身につけ整復につなげる。

〈到達目標〉

・柔道整復師の業務内容を理解し、医療従事者としての心構えを身につける。

・整復法、固定法、後療法の基本を理解し、各論を学ぶ際に治療法を結びつけられるようにする。

・基本包帯法を身につけ、各疾患に対する固定法を実施できるようにする。

2 授業内容

第1回	テーピングの種類と機能	第31回	包帯の扱い方、巻軸包帯について
第2回	足関節のアンダーラップとアンカーテープ	第32回	基本包帯法①
第3回	バスケットウィーブ	第33回	基本包帯法②
第4回	フィギュアエイト	第34回	基本包帯法③
第5回	ヒールロック	第35回	基本包帯法④
第6回	足関節のテーピングまとめ	第36回	肋骨骨折　固定①
第7回	膝関節のアンダーラップとアンカーテープ	第37回	肋骨骨折　固定②
第8回	膝関節のサポートテープ	第38回	肋骨骨折　固定③
第9回	膝関節のサポートテープ	第39回	肋骨骨折　固定④
第10回	キネシオテーピング	第40回	足関節外側側副靭帯損傷　固定①
第11回	診察①	第41回	足関節外側側副靭帯損傷　固定②
第12回	診察②	第42回	足関節外側側副靭帯損傷　固定③
第13回	診察③	第43回	足関節外側側副靭帯損傷　固定④
第14回	治療法(骨折の整復法①)	第44回	鎖骨骨折　診察整復①
第15回	治療法(骨折の整復法②)	第45回	鎖骨骨折　診察整復②
第16回	治療法(脱臼の整復法①)	第46回	鎖骨骨折　診察整復③
第17回	治療法(脱臼の整復法②)	第47回	鎖骨骨折　診察整復④
第18回	治療法(軟部組織損傷の初期処置①)	第48回	鎖骨骨折　固定①
第19回	治療法(軟部組織損傷の初期処置②)	第49回	鎖骨骨折　固定②
第20回	治療法(固定法①)	第50回	鎖骨骨折　固定③
第21回	治療法(固定法②)	第51回	鎖骨骨折　固定④
第22回	治療法(固定法③)	第52回	肩鎖関節脱臼　診察整復①
第23回	治療法(手技療法①)	第53回	肩鎖関節脱臼　診察整復②
第24回	治療法(手技療法②)	第54回	肩鎖関節脱臼　診察整復③
第25回	治療法(運動療法①)	第55回	肩鎖関節脱臼　診察整復④
第26回	治療法(運動療法②)	第56回	肩鎖関節脱臼　固定①
第27回	治療法(物理療法①)	第57回	肩鎖関節脱臼　固定②
第28回	治療法(物理療法②)	第58回	肩鎖関節脱臼　固定③
第29回	指導管理	第59回	肩鎖関節脱臼　固定④
第30回	外傷予防	第60回	最終評価

3 履修上の注意

医療従事者を目指す者としてふさわしい身だしなみで受講する。

4 準備学習（予習・復習等）の内容

授業で使用した資料と教科書を照らし合わせながら復習を行う。講義で実施したものは次回の講義までに必ず出来るように復習をしておく。

5 教科書

柔道整復学・理論編、柔道整復学・実技編、包帯固定学

6 参考書

7 成績評価の方法

定期試験の60％以上を合格とし、出席率、授業態度等、課題、授業に対する姿勢の総合評価とする。

8 教員紹介（学位、資格、指導経歴等）